



師弟同行

校長 作田潤一

結果よりも、そこに至る過程で価値あることを学び、体験と感動をもとに大きく成長することが多くあります。子どもたちにとって、体育大会などの学校行事がその機会です。

コロナ禍の中、無観客・ライブ配信に加えて延期開催の体育大会となりましたが、生徒は逞しく困難な状況乗り越えようと頑張ってくれました。

雨天が続き、練習が十分にできない日が続きましたが、雨が上がった日の朝には、次のような光景がグラウンドで繰り返されました。

7:00前、体育担当の先生がグラウンドの状況確認を行い、練習用のラインを引き始める。

7:00すぎ、出勤した先生が次々にグラウンドに出て、水たまりの水を雑巾やスポンジで吸い取り始める。

7:30ごろ、登校してきた生徒が体育服に着替えて、グラウンドで先生と一緒に、水たまりの水を雑巾やスポンジで吸い取り始めたり、砂を入れたり、テントを立てたりし始める。

ある1年生は、体育大会で頑張った人として「全校生徒＋先生方。安全な体育大会を行うために、みんなで協力してビチョビチョの運動場を土で埋めたりテントを張ったり、準備を頑張った。」と感想を書いています。

教育は建国の基礎にして 師弟の和熟は育英の大本たり

これは、夏目漱石が旧制第五高等学校に勤めていたときに、教員代表として創立10周年式典の祝辞で述べた一節です。

生徒と先生が、“体育大会を素晴らしいものに”と心を一つにした成果が、いろいろな場面で見られました。そして、走り終えた生徒、演技を終えた生徒の全員が肩で息をする姿がとても印象的でした。

第70回体育大会

「突破—最後まで挑み続ける体育大会—」

短い取組期間、そして例年より3週間ほど早い梅雨入りの影響で運動場が使用できない日が続くなど、思うように練習ができない状況が続きましたが、3年生を中心に全校生徒、職員が一丸となって練習に取り組み、



堂々の入場行進

「この短い期間でよくぞ！さすが御船中生！」と感じさせる仕上が

りで第70回体育大会を開催することができました。

各学年の心を合わせた技巧走、全員が心をつないだ全員リレー。「よさこいソーラン」での女子のはつらつとした演技、「民舞ソーラン節」での男子の力強い演技。そして、各団工夫を凝らした応援。スローガンのとおり、生徒一人ひとりが最後まで挑み続け、多くのことを学び、大きく成長した体育大会でした。

無観客での開催でしたが、小手川写真館の協力でインターネットを使ってのライブ配信、録画配信で家族にも観覧していただきました。画面越しに御船中生を応援して下さった家族の方々に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

暑い夏に向けて

夏に向けて環境美化委員会で緑のカーテン作りとヒマワリの種まきをしました。緑のカーテンはゴーヤの苗をネットに絡ませ、シェード風に仕立てます。周囲の気温や室温を下げる効果があり、エコなガーデニングアイテムです。また、体育館横の通路沿いの花壇にヒマワリの種を植



ゴーヤの苗植え

ました。環境美化委員会が愛情を注いで育てます。緑のカーテンで暑い夏を乗りきり、ヒマワリのように元気に学校生活を送ってほしいと思います。

御船中クリーンボランティア

JRC委員会の発案で、「できる人が、できる時に」を合い言葉に、地域をきれいにする“ちょこっとボランティア”を始めました。6月2日に第1回が開催されましたが、64人の生徒が参加しました。3班に分かれ、恐竜公園、城山公園、スポーツセンター周辺の清掃活動を行いました。生徒たちからは「ゴミが思ったよりも少なかった。御船町の人たちは普段から環境を美しくするという意識が高いのだろう。」といった感想が聞かれ、ふるさとを再認識するいい機会にもなりました。今後も各月の第一水曜日にボランティア活動を行っていく予定です。



今後の予定

- 6月22日(火): 郡中体連推戴式
- 6月23日(水): スクールロイヤール授業
- 6月26日(土): 郡中学校総合体育大会
- 6月27日(日): 郡中学校総合体育大会
- 6月28日(月): 振替休業日 ※7月3日分
- 7月3日(土): PTA授業参観
- 7月5日(月): 川島隆太氏講演会



○川島隆太氏プロフィール

東北大学加齢医学研究所所長、医学博士。
専門分野はヒトの脳活動の仕組みの解明、研究と応用。「脳を鍛える大人の計算ドリル」、「脳を鍛える大人の音読ドリル」など著書多数。

- 7月20日(火): 一学期終業式
- ※県中学校総体: 7月17日(土)、18日(日)
- 24日(土)、25日(日)、26日(月)
- ※県吹奏楽コンクール: 7月26日(月)